

第2学年 音楽科学習指導案

は組 男子 20名 女子 20名 計 40名
指導者 濱田 宏 明

1 題材 春のさんぽをおんがくであらわそう

教材 音あそび
春のさんぽをおんがくであらわそう

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第1学年題材「おとでおはなししよう」において、楽器の音色やリズムに気を付けながら、日常にある音をつくって表現する活動を通して、イメージしたものの音を表すことの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、もっと多様な楽器で音を出したり、イメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けて、様々なものや様子を音楽で表したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、身の回りの音や様子を、楽器や素材の音の特徴を生かして表現を工夫したり、音楽の仕組みを手掛かりとして、簡単な音楽をつくったりする活動を通して、音の様々な特徴や面白さに気付き、音楽の仕組みを生かして音楽を構成する能力を育てるとともに、思いをもって簡単な音楽をつくることに興味をもち、楽器ごとの音の特徴を生かして、音の出し方や組合せを工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「春のさんぽをおんがくであらわそう」を設定した。

ここでの学習は、順番や始め方、終わり方を考えたり、音の特徴を生かしたりして、場面に合った表現を工夫する能力を育てる第3学年題材「いい音えらんで」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

音の様々な特徴や面白さに気付き、音楽の要素を生かして音楽を構成する能力を高めるためには、耳をすませて音を聴き、音の出し方や組合せを工夫し、音楽の仕組みに着目してそれを手掛かりに音を音楽へとしていく活動を行うのが効果的である。特にこの期の子どもたちには、身の回りの音を使った活動を通して、音の様々な特徴や面白さに気付き、それを生かした活動にすることが大切である。

具体的には、まず「音あそび」の活動に取り組みさせる。この活動は、身近な楽器の音に耳を傾け、音の出し方を工夫して、音色や響きの違いを感じ取るのに適している。そこで、様々な楽器から音の特徴を感じ取る活動を通して、お気に入りの音をみつけたり、新たな音を発見したりする喜びや楽しさを味わえるようにする。

次に、「春のさんぽをおんがくであらわそう」の活動に取り組みさせる。これは、生活科の小単元「春のさんぽ」と関連させることで、春の情景をより豊かに感じ取らせ、「こんな音を出したい」という思いをもって音楽づくりをすることができる教材である。そこでここでは、自分の選んだ楽器の響きにじっくりと耳を傾け、写真や挿絵などで体験したことを想起させながら、自分のもったイメージに合う音を工夫して音楽をつくることの喜びや楽しさを味わえるようにする。また、つくった音楽を相互発表・鑑賞し、言葉で伝え合うことを通して、自分にはない友達の感じ方や考え方のよさに気付いたり、新たな思いを広げたりして、友達と共感する喜びを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは楽器や素材ごとの音の特徴を生かして表現することのよさを味わい、音楽を形づくっている要素や仕組みを感じ取って表現することへの関心・意欲を高め、楽しく音楽とかかわっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 2年は組 男子20名女子20名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

① 楽器を使って音楽をつくることは好きですか。
はい(38) いいえ(2)
② その理由を答えてください。
【「はい」の理由】 ・ 楽しいから(17) ・ きれいな音が出せるから(8) ・ おもしろいから(3) ・ 色々な音が出せるから(3) ・ もりあがるから(3) ・ 楽器の名前をすることができる(1) 【「いいえ」の理由】 ・ 上手に演奏できないから(1) ・ 考えないといけないから(1)
③ 鳥の鳴き声を楽器で表すときどんなことに気をつけますか。
・ 楽器の選択(9) ・ 音の大きさ(8) ・ きれいな音(6) ・ リズム(2) ・ 音の高さ(2) ・ 楽器の奏法(2) ・ 本物の鳥の鳴き声と比べる(1)
④ 楽器を使ってぞうの歩く音、ありの歩く音をつくりましょう。
・ 音色, リズム, 速度, 強弱などで違いを出して音をつくることができる。(37) ・ 音色, リズム, 速度, 強弱などで違いを出して音をつくるできない。(3)
⑤ タンブリンや鈴をリズムに合わせて正しい奏法で演奏しましょう。
・ タンブリンや鈴をリズム正しい奏法で演奏できる。(39) ・ タンブリンや鈴を正しい奏法で演奏できるが, リズムに合わない。(1)

①②から子どもたちの多くが音楽づくりをすることの楽しさを感じており、きれいな音や、様々な音を出したいと願っていることが分かる。一方「好きではない」と答えた子どもたちの理由として、技能面と心情面での不安が挙げられた。そこで、思いをもって簡単な音楽をつくる楽しさを味わわせながら、具体的な演奏方法を紹介したり、多様な範奏を提示しながら活動に取り組ませたりする必要がある。

③から、身の回りの音を表現するために、表現の仕方を変えようとする子どもたちが見られるが、楽器の音色の特徴のみで表現しようとする子も見られた。そこで、身の回りの音を表現するために、音の出し方や組合せを具体的に考える活動を取り入れる必要がある。

④から、音色、リズムなど音楽を形づくっている要素に着目して、音の違いを表現しようとする子どもが多いが、違いを表せない子どももいた。そこで、音楽を形づくっている要素を提示して音楽づくりの手掛かりとしたり、友だちの表現を聴いて同じ楽器でも演奏の仕方によって音が変わるということを気付かせたりする活動を取り入れる必要がある。

⑤から、子どもたちの多くが楽器を正しく演奏することができていた。しかし、楽器の奏法に問題はないがリズムに合わせて演奏できない子どもがいることも分かった。そこで、音楽づくりをしていく上で、子どもの思いを教師が試奏して模倣させたりするなど、個に応じた活動を行う必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 思いをもって簡単な音楽をつくることができるようにするために、生活科での様子を想起させるものを準備することにより、楽曲の場面や様子を具体的に想像させるようにする。

イ 音楽の仕組みに着目し、音の出し方や組合せを工夫することができるようにするために、表現の意図や思いについて話し合う場を設定する。

ウ 音の様々な特徴や面白さに気付き、音楽の要素を生かした音楽づくりをするために、お互いの演奏を聴いて、意見を交流する場を設定する。

3 目 標

- (1) 楽器で簡単な音楽をつくることに関心をもち、イメージした音を表現できているか振り返りながら、音楽づくりに進んで取り組むことができる。
- (2) 楽器ごとの音の特徴を生かして、音の出し方や組合せを工夫することができる。
- (3) 音の様々な特徴や面白さに気付き、音楽の要素を生かして、音楽を構成することができる。

4 指導計画（全4時間）

過程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握 課題追求Ⅰ	1	音あそび	いろいろながっきで、音を出そう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな楽器に興味をもたせるために、楽器当てクイズをしながら紹介する。 ○ 音の様々な特徴に気付かせるために、色々な楽器でイメージした音楽づくりに取り組ませる。
課題追求Ⅱ			<ul style="list-style-type: none"> ○ 音を聴いて、楽器当てクイズをする。 ○ いろいろな楽器にふれて、それぞれの音色の特徴を感じ取る。 	
	2	春のさんぽをおんがくであらわそう	春のさんぽを思い出してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 春のさんぽの様子を思い出すことができるようにするために、さんぽに行ったときの写真やワークシートを提示する。 ○ 単なる擬音づくりにならないように、つくろうとしている音がどのようなイメージなのかを設定させるようにする。 ○ 一つの楽器でも色々な音の出し方や表し方があることに気付かせるために、相互発表・鑑賞を行う。
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 春のさんぽで見つけた音や、様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥の鳴き声が聞こえたよ。 ・ あたたかい風がふいていた。 ○ 聞こえてきた音や、さんぽの様子から、どんな音や様子を音楽で表すか決める。 ○ 楽器を選択し、試しに音を出しながらつくってみる。 ○ 相互発表・鑑賞する。 	
	3 (本時)	春のさんぽをおんがくであらわそう	春のさんぽで見つけた音やようすをあらわしてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージと、音楽を形づくっている要素とを結び付けるために、表したい音や様子のイメージを明確にさせてから音楽づくりに取り組ませる。 ○ 自分の音楽がより伝わるようにするために、つくった音楽を発表する前に、その音や様子のどんなイメージを音楽にしたのか述べてから発表させるようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が表したいイメージにあう楽器を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かえるのはねる感じを出すにはカスタネットより、タンブリンの方がいいな。 ○ 音楽を形づくっている要素を手掛かりに表現の工夫をする。 ○ 相互発表・鑑賞する。 	
まとめ	4		<ul style="list-style-type: none"> つくったおんがくをはっぴょうしよう。 ○ つくった音楽の発表会をする。 ○ つくった音楽の比較鑑賞を行う。 ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏のさんぽでは、どんな音が聴こえてくるかな。 ・ もっと身のまわりの音を、音楽であらわしてみたいな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな表し方があることに気付かせるために、お互いの発表を認め合う場を設定する。 ○ 音楽と豊かにかかわっていけるようにするために、今後の学習や生活とのかかわりという視点をもたせて振り返りをさせるようにする。

5 本 時 (3 / 4)

(1) 目 標

ア さんぼの様子や身の回りの音を音楽で表すことに興味をもち、進んで活動に取り組むことができる。

イ 音の特徴や音楽を形づくっている要素を手掛かりにして、表現の仕方を工夫したり、音楽づくりをしたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、春のさんぼで見つけた音や様子を音楽に表すことができるようにするために、生活科での活動を想起させるような資料を提示したり、基となる〔共通事項〕を手掛かりとして示したりする。また、表現の工夫をする際は、グループ活動を取り入れ、お互いの表現を認め合いながら学習を進めていけるような場を設定する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 前時までの学習を振り返り、今までに気を付けてきたことを話し合う。 ・ 楽器によってあらかしやすしい音があったぞ。 ・ 強さや速さをかえることでちがった音楽をつくることができた。	(分) ↑ 10	○ 観点をもって音楽づくりができるようにするために、前時までに気を付けてきたことを掲示する。 ○ 春のさんぼをイメージしたり、創作意欲を高めたりすることができるようにするために、生活科での学習を想起させるような資料を提示する。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 春のさんぼで見つけた音やようすをあらわしてみよう。	↓ ↑	○ 表現の工夫に気付くことができるようにするために、選んだ楽器や、気を付けることを書き込むことができるようなワークシートを用意する。
表現の工夫	3 自分の表したいイメージと、音楽を形づくっている要素とを結び付けながら、音楽づくりをする。 ・ 風の音は、やさしいかんじだったから、大きな音にならないにしよう。(音の強弱への着目) ・ さんぼの足音は、リズムよくたたいたほうが、楽しい感じがでそうだな。(リズムへの着目)	35	○ 音をしっかり聴いて、音の特徴を感じ取ることができるようにするために、音楽づくりに集中できるような表現の場を工夫する。
相互発表・鑑賞	4 相互発表・鑑賞する。 ・ トライアングルを弱い音でならずと、やさしい春の風のような音がわってくるな。 ・ 同じ歩く音でも楽器によってちがった音楽ができるな。	↓ ↑	○ 個人差に対応するために、音楽づくりが停滞している子どもには、教師が音色の違いや音の組合せをアドバイスする。 ○ お互いの発表を認め合うことができるようにするために、相互発表・鑑賞を行い、どんなところがよかったのか話し合わせる。
まとめ	5 学習のまとめをする。 ・ かえるの声は、ギロを使うと、なっているようすがあらわせたよ。 ・ たのしいさんぼのはずんだ感じを、タンブリンの音と「タッカタッカ」のリズムであらわすことができたぞ。 ・ 春のあたたかい感じを出すためにもっと他の楽器を使ってみよう。	5 ↓	○ 本時の学習を振り返らせるために、楽しかったことやできるようになったことを発表させるとともに、励ましや称賛の言葉をかけて次の学習への意欲を高めるようにする。